

新型コロナウイルス対策に超党派議員連盟設立

5月12日(水)17時から衆議院議員会館大会議室において「感染対策を資料と方法から考える超党派議員連盟」設立総会が約50人の議員と業界関係者の参加で開催された。議連設立総会の様子はホームページ検索↓日本除菌連合(会長に就任した片山さつき元地方創生担当相は「党派を超えて日々国民の声を聴いている我々としては感染防止対策についてなんらかの思いを持っている。これを党として認めざるをえない。日々国会で論議を通じながら改善しよう」と頑張っている。また、日常との両立を考えると感染対策に有効性があるものは活用し、それを広め、改善していくというコロナとせざるをえない。このコロナという難局と闘っていくことはできないもの、そういう認識で全員がこへ来て」と考えている。

感染対策の資料に関する各党と話をし、壁を

日本除菌連合新聞

発行元
日本除菌連合
JAPAN JOKIN UNION
〒001-0011
札幌市北区北11条西2丁目2-17 セントラル札幌ビル4階
info@jyokin-jp.com
https://jyokin-jp.com

感染対策を資料と方法から考える超党派議員連盟に結集

立憲民主党を代表して川田龍平議員からは「次亜塩素酸水については昨年のコロナが流行し始めた頃、レストラン業界の雑誌で知り、ロウウイルス対策やインフルエンザ対策としてレストランホテル業界、歯科医院でも数多く常に使われており、新型コロナウイルスにも効果があるのではないか」ということを早くから感じていた。

「マスコミによって間違った報道がされ、次亜塩素酸水溶液に対して国民の多くが間違っていることを正していかなければいけない。さらに政府の姿勢も改めていかなければいけないので、是非しっかりと取り組むをしたい。」

アルコールを使えない国もあり、しっかりと次亜塩素酸水に対する誤解を解いて感染対策として使えるよう努力をした。

国民民主党の岸本周平議員は地元支援者が空間噴霧装置の実用新案特許を申請中だが国の認可がおりない。しかし、老人介護施設を中心に効果があるということで実際に売れている。是非みなさんと応援したい。」

日本維新の会石井苗子議員は厚生労働省作成のポスターには誤解を招く文言があることを一番最初に指摘をした。吸い込む危険性があると言葉が壁のパネルですね、それで空間除菌をして



吸い込む危険性があると言葉が壁のパネルですね、それで空間除菌をして

日本除菌連合の取組に賛同する加盟社を募集

「やれる事はまだある」と一般社団法人次亜塩素酸水溶液普及促進会議が業界団体の枠を超え、「コロナ不活化」に取り組むさまざまな事業者との大同団結を呼びかけたのが日本除菌連合。趣旨に賛同する業界を併せるとすでに2000社を超える。

4月22日、東京で催された除菌連合の設立総会で越智代表は「感染防止を資料と方法で考える超党派議員連盟」の活動をバックアップしていく考えを示すとともに、次亜塩素酸水・光触媒・紫外線・オゾンなど日本中の最新技術を結集し、感染対策を進めていく考えを表明。来賓として出席した片山さつき議員は「我が国の技術は捨てたものではない。国力をあげて皆様の努力を必ず実る形にし、普通の生活、普通の経済活動の回復につながるよう取り組んでいきたい」と、除菌連合への期待と支援の意向を示した。

「感染対策を資料と方法から考える超党派議員連盟」加盟議員 (2021年5月12日現在)

| 衆議院議員 | | | | | | | | | | | |
|---------------|-----------------|----------------|--------------|----------------|----------------|----------------|----------------|--------------|--------------|-----------------|----------------|
| 逢沢 一郎 自民党 | 青山 周平 自民党 | 池田 真紀 立憲民主党 | 伊佐 進一 公明党 | 石川 香織 立憲民主党 | 伊東 良孝 自民党 | 生方 幸夫 立憲民主党 | 逢坂 誠二 立憲民主党 | 大西 宏幸 自民党 | 門 博文 自民党 | 金子 万寿夫 自民党 | 神谷 昇 自民党 |
| 城内 実 自民党 | 岸本 周平 国民民主党 | 北村 誠吾 自民党 | 櫻田 義孝 自民党 | 左藤 章 自民党 | 長尾 秀樹 立憲民主党 | 中谷 一馬 立憲民主党 | 馳 浩 自民党 | 深澤 陽一 自民党 | 船橋 利実 自民党 | 星野 剛士 自民党 | 本多 平直 立憲民主党 |
| 山田 賢司 自民党 | 山崎 誠 立憲民主党 | 道下 大樹 立憲民主党 | 宮下 一郎 自民党 | | | | | | | | |
| 参議院議員 | | | | | | | | | | | |
| 東 徹 日本維新の会 | 石井 苗子 日本維新の会 | 伊藤 孝江 公明党 | 太田 房江 自民党 | 加田 裕之 自民党 | 片山 さつき 自民党 | 川田 龍平 立憲民主党 | 佐々木 さやか 公明党 | 里見 隆治 公明党 | 塩田 博昭 公明党 | 鈴木 宗男 日本維新の会 | 高橋 はるみ 自民党 |
| 竹内 真二 公明党 | 西田 昌司 自民党 | 増子 輝彦 無 | 三浦 信祐 公明党 | 宮本 周司 自民党 | 安江 伸夫 公明党 | 和田 政宗 自民党 | | | | | |

(敬称略五十音順)

やれる事はまだある! — 空間除菌で感染防止対策を —

新型コロナウイルスに次亜塩素酸水溶液が有効と経済産業省・NITE が確認しました。
www.nite.go.jp/ ナイト 次亜塩素酸水 検索

次亜塩素酸水溶液は空間噴霧が可能な除菌・消臭液です。次亜塩素酸水溶液は人体に安全で無害な除菌・消臭液です。



空間除菌の効果・安全性、国内事例・海外事例についてはホームページ「コンテンツ・除菌事例」をご覧ください。検索→次亜塩素酸水溶液普及促進会議

厚労省は国会答弁でも以下の誤ったポスターとWHO がその根拠を否定している「空間噴霧はお勧めしない」という通達を修正していません。それによって全国の保健所や消費者センター、メディアに誤った認識が広がり、自治体、医療機関、高齢者施設、学校、イベント開催、ワクチン接種場などで本来とるべき除菌行動が取られずに感染リスクを高めています。一般社団法人次亜塩素酸水溶液普及促進会議は、厚労省に誤ったポスターと根拠のない曖昧な通達の撤回を求めています。

次亜塩素酸水溶液は医薬品ではないため、薬機法の規制上、製品に手指や人体に有効という表記は出来ませんが手指の除菌にも使えることは事実です。現実的な感染対策のために薬機法の特例措置を求めます。

ヒタヒタに濡らす必要はありません。アルコールと同じように少量の噴霧で十分です。

20秒も時間をおく必要はありません。詳しくはホームページの実験動画をご覧ください。

新型コロナウイルス対策 「次亜塩素酸水」を使ってモノのウイルス対策をする場合の注意事項

アルコールとは使い方が違います

拭き掃除には、有効塩素濃度80ppm以上のものを使いましょう

※ジクロロイソシアヌル酸ナトリウム等の粉末を水に溶かしたものを使う場合は、有効塩素濃度100ppm以上のものを使いましょう。※その他の製品によるものは、製品により、必要な有効塩素濃度は異なります。

- ①汚れをあらかじめ落としておく
目に見える汚れはしっかり落としておきましょう。
元の汚れがひどい場合などは、有効塩素濃度200ppm以上のものを使うことが望ましいです。
- ②十分な量の次亜塩素酸水で表面をヒタヒタに濡らす
アルコールのように少量をかけるだけでは効果ありません。
- ③少し時間をおき(20秒以上)、きれいな布やペーパーで拭き取る

安全上の注意

- 製品に記載された使用上の注意を正しく守ってください。
- 希釈用の製品は正しく希釈して使いましょう。
- 酸と混ぜたり、塩素系漂白剤と混ぜたりすると、塩素が発生する危険があります。(また、開栓時は、塩素が既に発生している可能性に注意してください。)
- 人が吸入しないように注意してください。人がいる場所で空間噴霧すると吸入する恐れがあります。
- 濃度が高いものを使う場合、直接手をふれず、ゴム手袋などを着用してください。

効果的に使うためのポイント

- 使用の際は、酸性度・有効塩素濃度や使用期限等を確認しましょう。
- 有機物に弱いので、汚れを落としてから使用してください。
- 空気中の浮遊ウイルスの対策には、消毒剤の空間噴霧ではなく、換気が有効です。

新型コロナウイルスに有効な消毒・除菌方法一覧はこちら

本資料は、2020年6月26日現在の知見に基づいて作成されたものです。修正されることがあります。

厚生労働省 経済産業省 消費者庁

厚労省作成のポスターの間違った点

厚労省が掲示している次亜塩素酸水溶液の使用上の注意のポスターについては、以下の点に重要な誤りがあり積極的な除菌の取り組みを阻害しています。JFKは表記の根拠となつた試験結果の開示とともに修正を求めます。

空間噴霧に関しては、様々な実験エビデンスで安全性が実証されています。詳しくは次亜塩素酸水溶液普及促進会議ホームページをご覧ください。

2021年5月現在まだ修正されていません。

JFK 一般社団法人 次亜塩素酸水溶液普及促進会議 Jiaensosansuiyoueki Fukyusokushin Kaigi
詳しくはホームページをご覧ください。次亜塩素酸水溶液普及促進会議 検索
TEL : 011-757-6317 info@jia-jp.net

やれることはまだある!

次亜塩素酸が実現する安全・安心空間

2019年12月に中国の武漢市で初めて報告された新型コロナウイルス感染症はその後急速に世界中に拡大し、発生から3ヶ月後にパンデミック(世界的流行)に至ったとの認識を示した。日本では、ワクチンの普及が滞るなか、国民に対して従来の予防策である換気、手洗い、アルコール消毒、マスク着用、三密回避、自粛の継続が求められている。しかし、これらの防衛的な措置だけでは不特定多数の人が出入りする室内空間では十分な対策とは言えない。実際、日本で最初の感染者が確認されたから1年以上も経過した本年5月を迎えても感染拡大の阻止には至っていない。

では、次亜塩素酸とは一体どのような物質なのか。次亜塩素酸は、1800年代の半ばから使用されてきた消毒剤であり、塩素消毒の活性因子として知られている。次亜塩素酸(HOCl)は塩素ガスに水を溶解することで生成する物質であり、極低濃度でありながら多くの病原菌やウイルスに対して速効的な不活化効果を持つことが特長である。

■空間微生物の制御
東京オリンピックを目前に控え、医療施設の逼迫が再び危惧されるなか、今まさに感染を防止する具体的な対策を講じることが急務である。微生物制御の観点から言えば、退治すべきウイルスが試験管の中に存在するとわかっていれば、不活化方法の選択は数多くある。しかし、人が行動する有人空間においてウイルスが広く拡散し、何処に存在するのかわからない場合は、適用できる不活化方法は限定される。つまり、ヒトへの安全性と不活化効果の有効性を兼ねた空間微生物の制御が求められている。この目的を実現する一つの方法が、希薄な次亜塩素酸水溶液(100~1000mg/L)を用いた超音波霧

化噴霧や通風気化式空間噴霧である。すでに多くの学術・応用研究が日本を中心に先行されており、約20年前から各施設に普及し、インフルエンザウイルスの感染防止対策に役立ってきた。日本では、ワクチンの普及が滞るなか、国民に対して従来の予防策である換気、手洗い、アルコール消毒、マスク着用、三密回避、自粛の継続が求められている。しかし、これらの防衛的な措置だけでは不特定多数の人が出入りする室内空間では十分な対策とは言えない。実際、日本で最初の感染者が確認されたから1年以上も経過した本年5月を迎えても感染拡大の阻止には至っていない。

■空間噴霧の効果と安全性
次亜塩素酸水溶液の空間噴霧は、処理対象を「モノ」から空間へと広げた技術である。その特長は、表面を濡らすことなく、手間をかけることなく除菌が行える点にある。超音波霧化方式では、噴霧した微細粒子から次亜塩素酸が揮発し、気体状次亜塩素酸として機体の元元から天井まで室内に拡散して作用する。

通風気化方式では、室内空気を装置内に吸引して次亜塩素酸水溶液を含ませ、た気液接触部材と接触させて酸化処理した後、処理空気とともに気体状次亜塩素酸が室内に放出される。両方式における気体状次亜塩素酸の濃度は、稼働条件によっても異なるが100~300ppbの範囲にあり、労働安全衛生法の環境基準(500ppb)よりも一方、浮遊する超音波微細粒子の次亜塩素酸濃度は大きく減少し、pHも中性寄りに変化するなど、原液の水溶液の液性と比較するとさらに穏和な液性となる。

超音波微細粒子および気体状次亜塩素酸の安全性および有効性は、実験動物を用いた眼刺激試験や吸入毒性試験など数多くの試験項目で確認されている。



三重大学大学院生物資源学研究所 福崎 智司教授(工学博士)

WHOの次亜塩素酸水溶液試験について
私は、昨年の4月に次亜塩素酸水が新型コロナウイルスを不活化するという実験から、この課題に挑戦しています。本日は次亜塩素酸水に特化してお話しさせていただきます。厚生労働省が次亜塩素酸水の噴霧は絶対してはいけないという根拠は、2020年5月15日付けのWHOのガイダンスに基づいてのものです。そこで私は、このガイダンスを詳細に調べました。その全訳はJFKのホームページに掲載されています。(https://jia-jp.net/ef/efot/)このWHOのガイダンスで問題になっている次亜塩素酸水とは塩素濃度が5,000ppmを超え、「次亜塩素酸ナトリウム」や「次亜塩素酸カルシウム」のような界面活性剤のことがあって、日本でも有効利用されている200,200ppmのものとは似て非なるものです。WHOはこの界面活性剤を含む消毒薬を噴霧してはいけないと書いています。私が知る限り、厚労省はこの「噴霧は推奨しない」という一文だけを引用し、これを根拠に書かれていないものを噴霧してはいけないといわれています。これは明らかにアンフェアです。これは明らかにアンフェアです。

WHOとのレターのやりとりでは、WHOは日本の次亜塩素酸水のことについては初耳で驚くと共に、WHOとして今後検証を行ってほしいとの修正をWHO協力センターであるロンドン大学に依頼しているのが現状です。

WHOと厚労省では新型コロナウイルス感染症対策における「Wuhan」の発音といたしまして、新しい概念を受け入れるには「勇氣」が必要です。しかし現状はもう躊躇してはおりません。厚労省は「セルフリス反射」つまり新しい概念を受け入れようという体制から脱却しなければなりません。

ここで政治がやらなければいけないことは明らかです。日本のためにそして世界のために、先生方のお力添えをお願いして私からの発言といたします。

北海道大学名誉教授 玉城 英彦(元WHOエイズ世界対策本部課長)

避難所の除菌対策

東日本大震災から10年が経ちました。あの日の時間に何をしていたか皆様の鮮明な記憶があると思います。テレビで日本中が観た東日本大震災のあの日の映像。もしこの時に新型コロナウイルスが感染爆発していたらどんなことになっていたでしょうか。

当然みなさまの頭に浮かんでいるはずですが、避難所でも病院でも高齢者施設でも学校でも被災と混乱の中で濃厚接触者が住民の半数を占めるような事態となり、人が人を収容している病院で感染者が廊下に転がっているような地獄絵図が現れます。

医療機関の崩壊とはそういう事態のことを言います。10年前のあのときにもインフルエンザの流行がありました。今回は治療法すら見つけられていないウイルスの流行です。

南海トラフ地震も北海道東方沖地震も数メートル

級の津波もある日突然やってくるのが自然災害です。ワクチン接種の終了を自然は待ってくれません。ただし、地震や津波は防げなくてもウイルスは防げません。感染予防のための除菌マニキュアル、感染者が出たときの緊急除菌マニキュアル、感染拡大防止のためのPCR検査基準、避難所での感染者隔離と除菌マニキュアル。除菌に必要な資材の備蓄を大震災、猛吹雪、猛暑、停電、大地震、大津波のシミュレーションで想定してください。

10年目の今年、あの映像を親てなお備えることをしないのならば、日本には危機管理という言葉も組織もありません。

いまやれる事はまだまだあります。国民の健康と命を守るために危機管理の観点から感染対策を考える必要があるのです。

■空間微生物の制御
東京オリンピックを目前に控え、医療施設の逼迫が再び危惧されるなか、今まさに感染を防止する具体的な対策を講じることが急務である。微生物制御の観点から言えば、退治すべきウイルスが試験管の中に存在するとわかっていれば、不活化方法の選択は数多くある。しかし、人が行動する有人空間においてウイルスが広く拡散し、何処に存在するのかわからない場合は、適用できる不活化方法は限定される。つまり、ヒトへの安全性と不活化効果の有効性を兼ねた空間微生物の制御が求められている。この目的を実現する一つの方法が、希薄な次亜塩素酸水溶液(100~1000mg/L)を用いた超音波霧

「バブリアワー」の真実「なぜ洗剤とアルコール以外が評価されないか」

「バブリアワー」の真実「なぜ洗剤とアルコール以外が評価されないか」
手広告代理店に抑えられ細かい次亜塩素酸水メーカー等のコマーシャルは入ることができない。専門家と称するコメンテーターも結局はスポンサーに配慮しアルコール手洗以外の除菌については口をつぐんでいる。制作側は当然スポンサーに忖度する。先日専門家が企業訪問して感染対策をチェックするという企画では窓のない会

議室で空気清浄機を使いたい企業側が問うているにもかかわらず感染症学会の専門家はコメントすらしなかった。巨大スポンサーの利益のために日本の感染防止の除菌情報と評価は無視され、封殺され、捻じ曲げられている。ワイドショーからしか情報収集しないメディアと政府がアルコールと自粛以外に何の情報も入らずにそれ



ワクチン接種会場除菌対策

新型コロナウイルス対策としてのワクチン接種が全国で開始されました。これから一年近くかけて全国民が接種する大事業です。変異株への効果や副作用への恐れなど報道されていますが、それ以前に全住民が集まり行列するという過去一年間になかったことも感染リスクが高い作業が始まります。特に一年間外出を避けていた高齢者の方々も接種会場に向向くのですから徹底した除菌と対策が必要です。

入り口で除菌マットで靴を拭い、会場内は大型の除菌空気清浄機を配備し、夏場の熱中症対策には大型冷風扇型のオゾン発生器も活躍します。ワクチン接種会場でのエアロソール感染を恐れる人には再び除菌して帰ってもらいます。その溶液には電解生成装置や、生成パウダーを希釈するのが経済的です。

全住民のPCR検査を行い陰性を確認しながらワクチン接種をするというのも現実的な対策になります。

このGWに成人式を挙げる自治体も多くあります。徹底除菌してPCR検査で陰性を確認することで感染リスクを最小にすることが可能です。

光触媒空気清浄機
次亜塩素酸水空気清浄機
オゾン発生装置
次亜塩素酸水溶液高圧噴霧器